

令和5年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立坂本中学校 教諭 三浦 宙

1 派遣期日 令和5年 8 月30日（水）～ 8 月30日（水）

2 派遣先 守谷市立守谷中学校
所在地 〒302-0110 茨城県守谷市百合ヶ丘2-2675
<https://www14.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=0820018>

3 研修内容

もりや型教育改革の提案 ～学習効果の最大化と働き方改革の両立～

(1) 公開授業

① 2年3組 社会科 江戸時代から明治時代へ

- 複数のアプリケーションの活用による学習課題の多面的・多角的な考察と協働的な追及
 - ・江戸幕府が滅亡した背景と以後の社会がどのように変化していったのかについて、「自作思考ツール」を活用し、事象間の関連を整理し、論理的に考察する。
 - ・「電子ノートアプリ（Meta Moji）」のモニタリング機能を用いて、目的と視点を明確にした意見交換を行う。

② 2年4組 国語科（総合的な学習の時間） 説得力のある提案をしよう

- 複数のアプリケーションを活用した協働的な学びによる「説得力のある提案」の検討
 - ・守谷市に寄せられた市民の意見をもとに、「もっと住みよい守谷」「魅力のある守谷」にするためのアイデア・改善策を Google スライドにまとめ、提案（プレゼンテーション）する。
 - ・発表までにタブレットを用いて提案内容を相互に録画し、明確な根拠や適切な資料の提示ができているか確認する。

(2) 全体会

〔テーマ1〕 もりや型教育改革

守谷市立黒内小学校校長 奈幡 正

① 学校教育改革プラン

- ・週3日以上5時間授業の実施
- ・バランスを考慮した授業日の増加（夏季授業、前・後期制の導入と給食実施、県民の日・創立記念日）
- ・退勤時刻を早め、時間外勤務時間の縮減
- ・専科教員によるGIGAスクールの授業により、担任の空き時間確保
- ・オンライン授業によって個別の教育ニーズに対応

② プランからビジョンへ

- ・「改革プラン」から「ビジョン」への移行の意義
- ・取組内容に関連性があり、相互補完と相乗効果で、子供・先生・保護者の生活の充実やゆとり、スマート化

③ 未来の教育もりやビジョン

- ・1人1台端末を効果的に活用した「守谷型ラーニングスタイル」
- ・主体的・対話的で深い学びの実現「教材バンク」
- ・学びを未来へつなげる「守谷型e-ポートフォリオ」
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境
- ・学校と家庭をつなぐ「守谷型クラウドシステム」

④ 教育改革の足跡

〔テーマ2〕 中学校における教育改革

守谷市立守谷中学校 越智 嘉雄

① 部活動改革

- ・物理的な改革（カリキュラムマネジメントに合わせた部活動時間やオフシーズンの設定）
- ・意識改革（市内全部活動顧問対象の研修実施、活動時間を1コマ50分で捉える）

② 校内フリースペース

- ・不登校問題、心の居場所の確保（市職員が常駐し対応）

〔テーマ3〕 ICTを活用した学校ニューノーマル

守谷市立守谷小学校 荒井 弘勝

① ICTを活用した学校の一日の流れ

- ・学校ポータルを活用による欠席連絡フォームの設置
- ・スプレッドシートを活用した情報の一括管理
- ・児童生徒が使用する「学習ノートアプリ」を1種類に統一（Meta Moji）
- ・教材のデジタル化（授業ノートの作成、教材の配布・回収、クラウド上で掲示物を管理）

② もりや型デジタルの家庭連携

- ・学校DX化における保護者との連絡ツール（Google workspace など）の活用（手紙・文書のペーパーレス化、連絡帳、欠席連絡シート、アンケートのペーパーレス化、情報共有ツールとしての利用）
- ・家庭との連絡ツール（Google Classroom）の活用
- ・保護者への情報提供ツール（ポータルサイト）の活用
- ・家庭からの情報収集ツール（Google フォーム）の活用

③ 学習効果の最大化と働き方改革の両立

- ・ICTを活用した学習効果の最大化（ICT機器・学習ノートアプリの活用による業務の効率化、）
- ・公務システムDX化（G-Classroom 活用による職員間DX化の推進）
- ・学習効果と働き方改革を推進するために（市教委との連携と管理職のリーダーシップ、端末を日常的に使用する校内システムの構築）

〔総括〕 文部科学省初等中等教育局財務課

校務改善専門官 佐藤 悠樹

4 感想

公開授業参観では、iPadを使用した発表原稿作成などの共同作業や、自分たちの発表を録画しての内容検討、クラウド上での振り返り記入・提出など、自分の職場に戻ってからも活用できるようなICT機器の活用アイデアが盛り込まれており、大変参考になった。1人1台端末について、端末を文房具と同等、またはそれ以上に、日常的に使用できるような工夫が必要であると感じた。

働き方改革については、市内の小中学校全体で足並みをそろえ、使用するアプリケーションや部活動の活動時間などの改革を進めており、教育委員会との連携が必要不可欠であると感じた。公務システムのDX化によって会議資料をデータで共有したり、Google フォームや一斉メールのアンケート機能を活用して家庭とのやりとりを効率化したりするなど、現状のシステムでも十分実践できる内容も多く、大変ためになった。

自分の学校にも持ち帰り、教育の質や教員のワークライフバランス改善に向けて、改革できる部分を少しずつ変えていきたい。